

令和4年度

横浜市立みたけ台小学校

全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年12月

4月19日に6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。本校の状況についてお知らせします。

	国語	算数	理科
みたけ台小	72%	66%	68%
神奈川県平均	65%	64%	63%
全国平均	65.6%	63.2%	63.3%

○国語について

国語では、全国平均と比較してみると、全観点で平均正答率を上回る結果となりました。特に「読むこと」では、およそ10%も上回りました。文章の内容を捉え、自分の考えを明確にしながら読む力がついてきていると考えます。また児童質問紙の「読書は好きですか」にも「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」で70%を上回る回答が得られました。朝学習の時間に読書の時間を設けたり、担任による読み聞かせを行ったりすることで本に触れる時間が増えたのもこのような結果につながったと考えます。普段の生活も学力の定着に関係しています。今後も児童の課題を明確にし、充実した学習活動を展開していきます。

○算数について

算数においても、全観点で平均正答率を上回る結果となりました。特に図形についての設問では高い正答率を得ることができました。図形に対する知識・理解だけでなく、これまでのプログラミング的思考の育成に関わる指導の成果が表れてきていると考えられます。日々の授業の中でも基礎的な内容をしっかりおさえ、繰り返し学習することでより習熟を目指しています。「変化と関係」については、平均を下回る設問もありました。数量が変わっても割合は変わらないことを理解したり、二つの数量が比例の関係にあることを用いて未知の数量を求めたりする問題について課題がみられました。示された場面をしっかりと理解し、既習内容を使って考えたり判断したり、新しいことを見出す活用力を身に付け、より確実な定着を目指していきたいと考えます。

○理科について

理科においても、全観点で平均正答率を上回る結果となりました。特に、「実験や観察で得た結果をもとに様々な視点で分析、解釈して自分の考えをもつことができる」という観点で高い正答率を得ることができました。また、実験道具の使い方も身に付いていることが分かりました。理科専科の導入も高い正答率を得られた理由の一つとして考えられます。しかし、自分の考えを表現することに関しては課題が見られました。理科の授業内だけでなく、国語の学習をはじめ、様々な学習場面で自分の考えをノートに書いたり、タブレットなどの情報機器を活用したりして、伝えたり表現したりする力を高めていきたいと考えます。

○児童質問紙から言えることと、今後の方向性

児童の学校生活や学習に対する意識調査では、「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに対して全国平均より10%近くも高い結果となり、自己肯定感をもっている児童が多いことが分かりました。「学校に行くのは楽しいと思いますか」の設問については、「当てはまる・だいたい当てはまる」と答えた児童が多く、80%を上回る結果となりました。コロナ禍においても、学びの工夫を行ったり、誰にでも相談できる安心感のある学校づくりに取り組んだりした結果ととらえています。学校で友達と協力して取り組むことの意味や普段の生活の充実感を感じていることが表れていました。

一方、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」などの設問は、全国平均程度、または若干下回りました。筋道立てて考えを説明したり、効果的に思いを表現したりすることに苦手意識をもっている様子が見えがえします。日常生活から、自分の考えを分かりやすく整理して話したり書いたりする力を身に付けられるような場を、意図的に作っていきたいと考えます。

